

JWWA K 132:2015 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管

訂正箇所

頁	訂正箇所	訂正内容	
19	巻末解説 4.3 外観及び形状	正	<p>a) ライニング管の内面の色は、今回の改正で実際の色調に合わせて、“青色”から“水色”に変更した。</p> <p>b) 2000年版までのライニング管A及びライニング管Dの外面の色は、それぞれ薄い茶色、薄い青色となっていたが、“薄い”という定義が明確でないこと、及び漢字表記の“薄い”という用語は通常“厚さ”に対して用いられるものであるとの理由で、2003年改正時に薄いという文言を削除した。しかし、ライニング管Aの茶色については、各製造業者で微妙な違いがあるものの、“うすい”という修飾語を付けた色調に近いこと、JIS Z 8110（色の表示方法－光源色の色名）で色の濃淡を表す場合は、ひらがなの“うすい”を用いることとされていることから、今回（2015年）の改正で“うすい茶色”とした。</p> <p>なお、ライニング管Dの実際の外面の色は内面の水色よりも濃い色合いであるため、規定は“青”のままとした。</p> <p>c) ライニング管の両端は、現場でねじ加工するため、プレナムとした。</p>
		誤	<p>a) 2000年版までのライニング管A及びライニング管Dの外面の色は、それぞれ薄い茶色、薄い青色となっていたが、“薄い”という定義が明確でないとの理由で、2003年改正時に薄いという文言を削除した。実際の色調については、各製造業者で微妙な違いがあるものの、“うすい”という修飾語を付けた色調に近いこと、今回（2015年）の改正で、それぞれ“うすい茶色”、“水色”とした。</p> <p>b) ライニング管の両端は、現場でねじ加工するため、プレナムとした。</p>